

里山里海の持続可能な未来を創る

「能登里山里海マイスター」 育成プログラムについて

国立大学法人 金沢大学



能登におけるイノベーションの4つのポイント

地域と大学が連携・共創し、地方創生を担う人材養成のノウハウの確立

1. 協定づくり、運営ファンドの確立、事業継続についての共創
2. 地域と大学のそれぞれのメリットの確認と実行性
3. 産学官金による創業、起業、新規事業の支援ネットワーク

地域に分散する潜在的なクリエイターの発掘、「ものづくりマインド」の醸成

1. 生物多様性や文化人類学などアカデミックな手法による座学・実習
2. 卒業要件に課した課題研究とプレゼンテーションを通じた相互啓発

修了生のネットワーク展開、点から線へ、そして面へのコミュニティ形成

1. それぞれの専門性による地域資源の活用とビジネスの創出
2. 新たな価値の共有による、UIターンの受け皿づくり

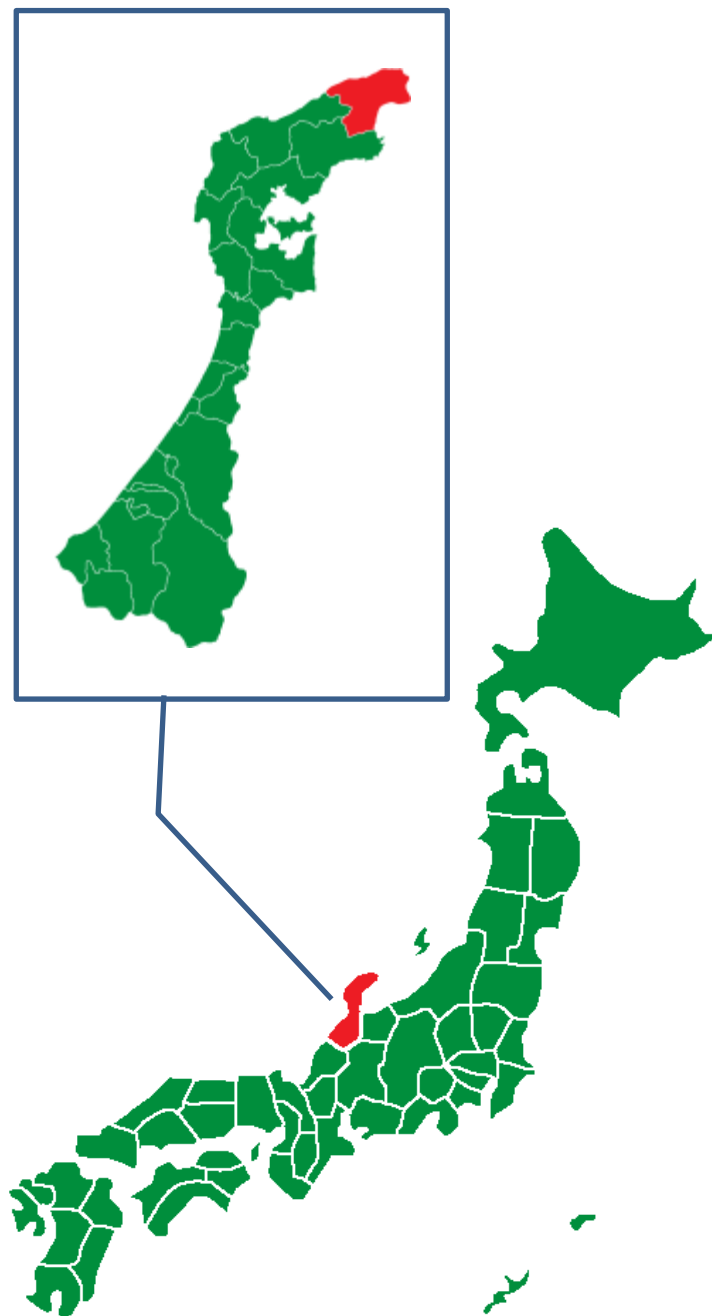
里山里海の国際的評価、ならびにグローバル課題解決の「能登モデル」

1. 生物多様性や持続可能社会、SDGsの焦点が里山里海
2. 若者の地域離れはグローバル課題、この解決モデルを能登で

- 能登半島の最先端に位置
【能登の現状】

珠洲市の場合

- 人口:15,001人 (H29.3.31現在)
- 高齢化率:46.99% (H29.3.31現在)



2007～2011 能登里山マイスター養成プログラム

2012～2015 能登里山里海マイスター育成プログラム

2016～ 第2期 能登里山里海マイスター育成プログラム

イノベーションの舞台づくり、3つの工夫

1. 2006年 能登学舎の開設

2. 常駐5人、非常勤1人スタッフ配置



150km



廃校舎を活用

寄附研究部門教員



伊藤浩二
(農学博士)
植物生態学



北村健二
(環境学博士)
地域資源管理、
参加型学習実践

地域連携推進センター連携研究員



淑瑠ラフマン
(文学博士)
民族音楽学



高橋恵子
(社会デザイン
学博士)
社会デザイン



岸岡智也
(農学博士)
農村計画、読書



小山明子
(動物学修士)
自然保護、国際

能登の地域創生プラットフォーム化

大学による社会人の学びの場づくり
キーワード
「能登の里山里海・持続可能性」

能登への愛着、熱意をもった受講生が集合

相互交流／価値共有／相互連携／価値発信

イノベーション創出のプラットフォームに展開

能登が求める里山里海マイスター人材

養成対象者

受講料 年間2万円

能登の再活性化を担う
45歳以下の次世代リーダー

能登に定住し、自然
や文化を学びたい

能登の自然・文化を活かした
暮らしを実践したい人

里山里海について
より良く理解したい

大学と共に里山里海を研究し、
保全・活用法を探りたい人

里山里海を仕事に
活かしたい

里山里海の価値を発見し、
ビジネスに活かしたい人

講義・実習 & 卒業課題研究

「里山里海マイスター」に認定



「職業実践力育成プログラム」
(BP)として文部科学大臣が認定

里山里海の価値を活かし、地域課題に取り組む人材
自然と共生する「能登の社会モデル」を発信する人材

マイスター修了認定の方法

認定要件



講義実習の単位認定

全講義実習コマ数の6割以上の出席レポートを義務
(大学の8単位分に相当)



卒業課題の単位認定

主査(金大教員)、副査(担任)に加え、外部審査員(有識者)の3人体制で審査
(大学の4単位分に相当)



「能登里山里海マイスター」の認定





講義の概要

月2回(第1、3土曜)
能登の現状と可能性
多彩な講師から学ぶ

生物多様性や地域経済の研究
全国の地域活性化の実践事例



「都市と農村をつなぐビジネス」
曾根原久司氏



「インバウンド・ツーリズム」
山田 拓氏



「芸術と地域づくり」
北川フラム氏

フィールドワーク(実習)の概要

地域と受講生との相互作用



- ・現場での課題、卒論テーマ発見
- ・伝統現場での価値再発見



生物多様性配慮の水田稲作とモニタリング



酒蔵見学(能登杜氏)

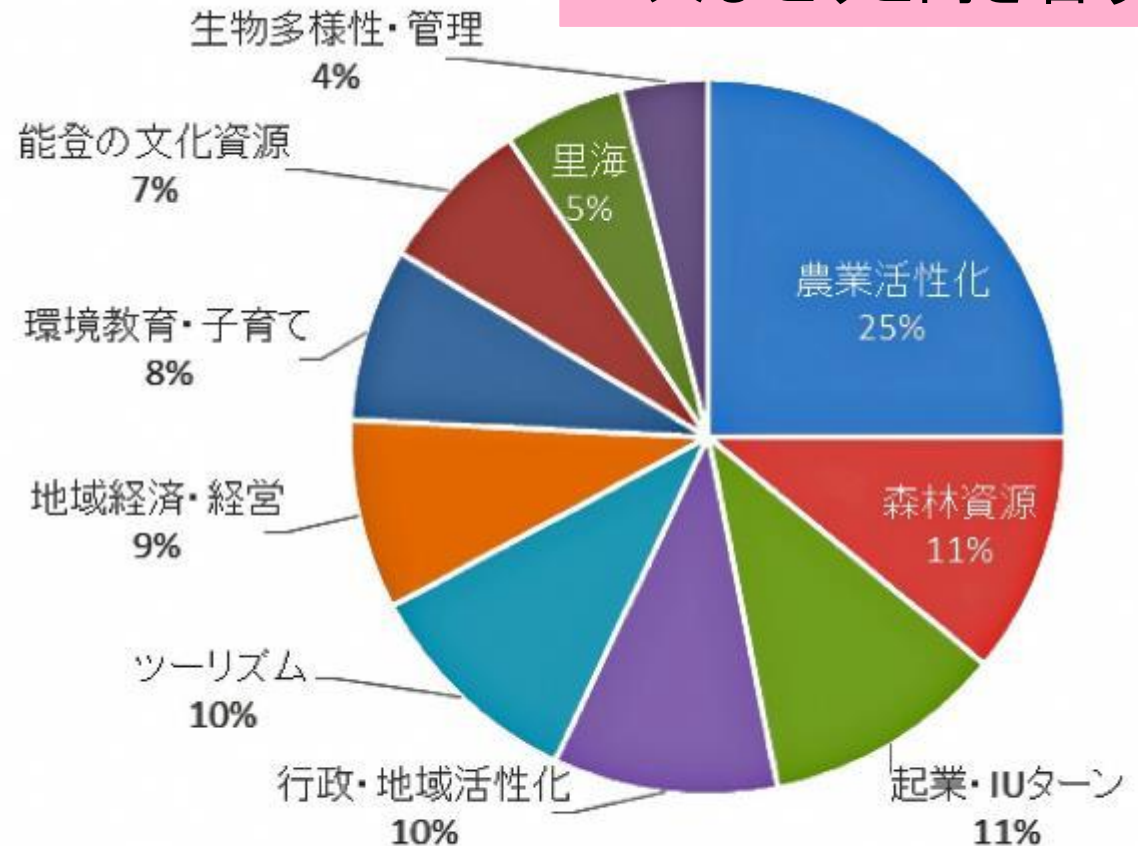


揚浜式塩田(重要無形民俗文化財)

伝統文化・技術や里山里海保全の現場取材

「自己啓発」 受講生は何をテーマに卒業課題に取り組んだのか

担任制で
一人ひとりと向き合う



2016年3月まで128名の卒論テーマ

2017年3月まで144名の「里山里海マイスター」

金沢大学長より 「マイスター」認定証を交付（修了式）



移住者(U・Iターン)の定着促進

奥能登地域への マイスター移住者(修了生)		29人
うち定着者		25人
内訳	珠洲市	16人
	輪島市	5人
	能登町	3人
	穴水町	1人

奥能登地域での
マイスター移住者定着率
=**85%**

移住間もない不安定な
時期をサポート

クヌギの森づくり、茶炭の産地化を目指す

能登の里山を管理・利用し、**高品質・高付加価値の茶道用木炭**を製造。原木となる**クヌギの植樹活動**をNPOとの協働で実施。里山産業のソーシャルビジネス化に。

「**お茶炭**」産地化を目指し、製炭者、NPO、茶道界、林業関係者、大学などを巻き込んだ「産地化プラットフォーム」を構築。**新たな「炭焼き人材」の育成**にも。



耕作放棄地を再生、6次産業化を開拓

マイスターで水産加工会社による**新規農業参入**を研究、石川県内第1号の農業参入を果たす。

能登各地の**耕作放棄地を再生**、68haの農地で20種以上の野菜を、約700t生産。減農薬栽培による野菜づくりと、自社加工と直売所・レストラン運営による**6次産業化**を果たす。



能登の食を核としたスロートーリズム拠点づくり

東京から夫婦で能登島に移住、**週末レストラン & 民宿を開業(オーベルジュ)**。
漁師・農家とマルチに活躍 & プロ
デューサー力を発揮。**魅力あるスロートーリズムメニューを次々と開発**。

2016年、ミシュラン富山・石川版に掲載。県水産振興協議会等の委員も。



船凍イカの加工品開発と全国・海外展開

日本三大イカ釣り漁業基地の小木地区で水産加工業を家族経営。

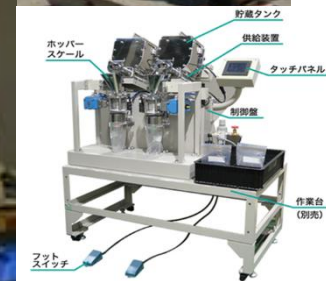
イカの町小木としての**地域ブランド発信の核となる担い手**。イカせんべいやふりかけなど高付加価値の商品開発を手がけ、**全国の催事やシンガポール等へマーケット拡大を展開**。



伝統的製塩法に機械メーカーの技術を活かす

天候や人手に依存している「揚げ浜式製塩法」(重要無形民俗文化財)の現場に、エンジニアの知恵と技術を活かす取り組み。

伝統として守るべき部分を維持しながら、天然塩製造業として産業が成長していくために、対話を通じて生産効率改善法を提案。



里山資源を活かしたクロモジ和精油の生産

里山林の未利用資源だったクロモジ樹木を採取し、高級和精油(エッセンシャルオイル)の生産・販売を行う。

樹木伐採後の再生力の調査を行い、原料の持続的採取を図るほか、アロマセラピストや和裁士ら精油ユーザーとチームを組んで、ブランド化に取り組む。



地場の金融機関とタイアップして「創業塾」をスタート

「能登里山里海マイスター」プログラム × 興能信用金庫

能登里山里海 第4回

創業塾

要予約
参加無料

第4回「販路開拓」

～顧客を見つけることは、汗をかくこと～

講師 竹内 真一氏 (明道コンサルティング 代表)

【日時】 平成29年 **9/2土** 16:45▶18:15

【会場】 金沢大学能登学舎 (珠洲市三崎町小泊33-7)

【講義予定 (全6回)】

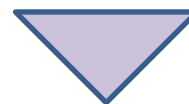
第1回 「経営について」	6月 3日 (土) 16:45～18:15
第2回 「財務について」	6月17日 (土) 16:45～18:15
第3回 「人材育成・労務管理について」	8月26日 (土) 開催予定
第4回 「販路開拓について」	9月 2日 (土) 開催予定
第5回 「マーケティングについて」	9月16日 (土) 開催予定
第6回 「事業プラン発表会」	10月 7日 (土) 開催予定

起業に向けた6回の講義

10年間で144人のマイスター輩出

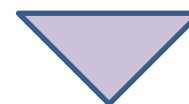
- ・ うち奥能登移住者は29人
- ・ ソーシャルビジネスのニーズ高い

クラウドファンディングなどを活用



さらに本格的な起業を目指し

創業支援事業としての認定



金融機関の融資や自治体の助成
受けやすくなる

2014年4月

GIAHSサイト間の連携、JICA事業

イフガオ里山マイスター養成プログラムが開講



能登で草の根の交流

日比のマイスター生同士の 相互訪問、交流事業をスタート！

第4回フィリピン/日本 国際フォーラム

2018.1.18@イフガオ州大学

能登から5名の農家・行政職員が参加、講演



地域の困難な課題にどう立ち向かうのか 「人口減少社会」と「里山里海」で起こすイノベーション

金沢大学「マイスタープログラム」が果たす役割

① 地域の価値を再評価し高める

大学の学術的資源を活用。地域の強みや課題を科学的に分析、見える化。課題解決の土台をつくる。

② 若者を呼び込み、ビジネスを創生

魅力あるコンセプトとカリキュラムで人材を呼びこむ。里山利用の担い手、新たなイノベーションを起こす核となる人材を育成。

③ 共有可能価値を国際的に発信

世界農業遺産、生物文化多様性、SDGsなど、普遍的価値を地域の実情に併せてローカライズ。地域ブランド力のさらなる向上へ。



「多様な人材が集まり、学ぶ場づくり」を通じて
生物文化多様性を活かした「能登モデル」を国際発信